

令和 8 年度

県営土地改良（農業用ため池整備）事業計画書

都道府県名	福	岡	県
地区名	大	道	地
所在名	宮	若	市
事業主体	福	岡	県

# 目 次

第1章 目 的	1
第2章 地域及び地積	1
第1節 地 域	1
第2節 地 積	1
第3章 現 況	2
第1節 気象及び海象	2
1. 一般気象	2
2. 特殊気象	2
3. 海 象	3
第2節 土 地 状 況	3
1. 地形、土壌及び浸食の程度	3
2. 土地分類	5
3. 土地利用の状況	6
4. 土地所有の状況	6
第3節 水 利 状 況	7
1. 用水状況	7
2. 排水状況	10
3. 河川状況	12
第4節 道 路 現 況	13
1. 道路概況	13
2. 主要道路一覧表	13
第5節 地域農業の概況	13
1. 産業別就業人口	13
2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況 並びに専兼業別農家数	14

3. 動力農機具及び主要家畜頭数	14
4. 主要作物作付状況	15
5. 農業の動向	16
第6節 地域環境の概況	17
第4章 一 般 計 画	18
第1節 事業計画の要旨	18
1. 要 旨	18
2. 事業別面積	19
第2節 営農計画及び土地利用計画	20
1. 営農計画の概要	20
2. 土地利用区分	20
3. 作付方式	21
4. 生産計画	21
5. 労働改善計画	22
6. 級地別土地利用区分	22
7. 土地配分計画	23
第3節 用 水 計 画	23
1. 計画基準年	23
2. 計画かんがい方式	23
3. 計画用水系統	23
4. 計画用水量	24
5. 水源計画	25

第4節 排水計画	28
1. 計画基準雨量	28
2. 計画排水方式	28
3. 計画排水系統	28
4. 計画排水量	28
5. 排水対策	29
6. 湛水検討	30
第5節 道路計画	31
1. 道路及び索道	31
2. 路線配置図	31
第6節 農用地造成計画	32
1. 農用地造成計画	32
2. 土壌改良	32
第7節 洪水調節計画	33
1. 計画基準雨量	33
2. 計画洪水量及び調節量	33
3. 貯水池	33
4. 洪水調節検討	34
5. 管理計画	34
第8節 干拓計画	35
第9節 農用地整備計画	35
1. 区画整理	35
2. 暗渠排水	36
3. 客土	37
4. 農地保全	38
第10節 老朽ため池改修計画	39
1. 洪水吐改修計画	39
2. 堤体補強計画	39
3. 取水施設改修計画	39

第5章 主要工事計画	40
第1節 用水施設	40
1. 貯水池	40
2. 頭首工	40
3. 揚水機	41
4. 用水路	41
5. その他かんがい施設	41
第2節 排水施設	42
1. 排水水門	42
2. 排水機	42
3. 排水路	43
4. その他排水施設	43
第3節 道路及び索道	43
1. 道路	43
2. 索道	44
第4節 農用地造成	45
1. 農用地造成	45
2. 土壌改良	47
第5節 洪水調節施設	48
1. 貯水池	48
2. 頭首工及び導水施設	48
第6節 干拓施設	49
1. 堤防	49
2. 潮止め	49
3. 付属施設	49
4. 埋立	49

第7節 農用地整備施設	5 0	第4節 土地の評価及び清算の方法	6 0
1. 区画整理	5 0	1. 評価の方法	6 0
2. 暗渠排水	5 1	2. 精算の方法	6 0
3. 客土	5 2	第5節 換地計画樹立の年度計画	6 0
4. 除礫	5 2	第6節 換地処分の特則	6 0
5. 農地保全	5 3		
第8節 老朽ため池改修施設	5 4	第10章 事業費の総額及び内訳	6 1
1. 貯水池	5 4	第11章 効用	6 1
2. 堤体補強施設	5 4	第12章 関連する事業	6 2
		第13章 関係図面	6 2
第6章 付帯工事計画	5 5	1. 位置図	6 2
第7章 工事の着手及び完了の予定時期	5 5	2. 計画概要図	6 2
第8章 環境との調和への配慮	5 6		
第9章 換地計画の概要	5 7		
第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方	5 7		
第2節 換地区の設定	5 7		
1. 換地区の名称, 所在, 面積	5 7		
2. 換地区を設定する理由	5 7		
第3節 換地計画樹立の基本方針	5 7		
1. 従前の土地の面積の基準	5 7		
2. 用途別予定地積	5 8		
3. 農用地集団化の方針	5 9		
4. 非農用地の換地方法	5 9		

## 第 1 章 目 的

### (1) 必 要 性

本地区の大道溜池は、その築造年は不明であるが、古くからかんがい用のため池として利用されている。

現堤体は余裕高が不足している。更に、下流斜面は、すべり破壊を検討する安全率が基準とする、1.2を下回っており、安全性を確保出来ない。また、上流側法面には法面保護工がなく、下流面には規定量を超える漏水があり、堤体全体としての対策が必要である。

取水施設工は老朽化しており、底樋も断面不足である。また、緊急放流機能が不足しているため、急な放水に対応することが出来ず安全性が確保できないため、改修が必要である。

洪水吐は、断面が不足しており、改修する必要がある。

このことから、本事業の施行により施設の改修を行い、ため池決壊による被害の発生を未然に防止し、地域の安全性を確保するとともに、農業用施設としての機能を改善することにより農業生産の維持及び農業経営の安定化を図ることを目的とする。

### (2) 緊 急 性

大道溜池は、堤体、洪水吐等の老朽化により、堤体が決壊するという事態になれば、ため池下流の農地、農業用施設及び公共施設等に多大な被害が起きると予測されるため、早急に整備する必要がある。

## 第 2 章 地域及び地積

### 第 1 節 地 域

(第 1 表)

事 業 名	地 域
農業用ため池整備事業	大道溜池は宮若市の中心よりも、やや南。セビガ尾山の北側麓に位置する。下流側の受益地は圃場整備地である。

### 第 2 節 地 積

(第 2 表)

事 業 名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原 野 (ha)	山 林 (ha)	そ の 他 (ha)	計 (ha)	備 考
	市町村名							
農業用ため池 整備事業	宮 若 市	4.6	—	—	—	—	4.6	
	計	4.6	—	—	—	—	4.6	
	計							
合 計		4.6	—	—	—	—	4.6	

### 第 3 章 現 況

#### 第 1 節 気象及び海象

##### 1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名 観測期間	飯塚特別地域 気象観測所 H3年～R2年	かんがい期 6月～10月	非かんがい期 11月～5月	計または平均	備 考
平均	気温 (°C)	23.5	10.6	16.0	気象庁HPより
降雨量	平均 (mm)	1,106.0	707.6	1,813.4	
	基準年 (mm)	—	—	—	
降水日数	平均 (日)	51	67	118	
	基準年 (日)	—	—	—	
根 雪 期 間	—				
無 霧 期 間	—				
最 多 風 向	南	最大風速 (風向)		22.3 m/s 南	

##### 2. 特殊気象

観測所名 飯塚特別地域 気象観測所 観測期間 S11年～R3年	第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位			第 5 位			備 考
	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	数量	年月日	発生 確率	
最大日雨量 (mm)	338.0	H30.7.6	—	301.8	S16.6.26	—	291.8	S24.8.17	—	289.5	H21.7.24	—	267.0	H15.7.19	—	
最大時間雨量 (mm)	101.0	H21.7.24	—	83.0	H15.7.19	—	79.0	H18.8.26	—	72.5	S48.7.31	—	69.0	H25.8.22	—	
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続干天日数 (日)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

3. 海 象

(第3表-3)

観測所名	観測期間	年～年	既往最高潮位 (m)	さく望平均満潮位 (m)	上下弦平均満潮位 (m)	平均潮位 (m)	上下弦平均干潮位 (m)	さく望平均干潮位 (m)	既往最低潮位 (m)	備考
実測値			( )							

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び浸食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目	田 (ha)						畑・その他 (ha)								受益地標高(m)		備考	
		傾斜区分	1/1000以下	1/1000～1/100	1/100～1/20	1/20～1/11.5	1/11.5以上	計	3℃以下	3℃～	0℃～15℃			15℃～20℃	20℃以上	計	最高		最低
											0℃～10℃	10℃～15℃	15℃						
農業用ため池整備事業	面積 (ha)	—	—	4.6	—	—	4.6	—	—	—	—	—	—	—	—	74.0	45.0		
	百分率 (%)	—	—	100	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—				
	面積 (ha)																		
	百分率 (%)																		
合計	面積 (ha)	—	—	4.6	—	—	4.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	百分率 (%)	—	—	100	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	—				

(第4表-1-2)

項目 土壤統(区)名	土 壤 統 ( 区 ) 区 分 一 覧 表									面 積 (ha)			備 考
	土 壤 断 面							堆積様式	母 材	事 業 名			
	色	腐 食	礫 層	酸 化 沈 殿 物	土 性					泥炭層 黒泥層 及び グライ層	農業用 ため池 整備事 業	計	
					表土	下表土							
一層	二層	三層											
	—	—	—	—	—			—	—	4.6		4.6	
計										4.6		4.6	

(第4表-1-3)

事業名	区分	土 壤 の 流 亡 率				年 平 均 流 亡 速 度				カリー浸食の程度		備 考
		0	0~25%	25~50%	50%以上	0	3mm未満	3~5mm	5mm以上	中程度のもの	大なるもの	
	面積(ha)											
	比率(%)											

2. 土地分類

(第4表-2-1)

市町村名	農用地造成											計 (ha)	備考
	一級地	二級地				三級地				四級地			
		*	0° ~3°	3° ~12°	12° ~15°	*	15° ~20°	20° ~25°	25° ~30°	*	30°以上		
	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
計													

\*は傾斜以外の要因によるもの

(第4表-2-2)

市町村名	一級地 (ha)	二級地 (ha)	三級地 (ha)	四級地 (ha)	計 (ha)	備考
計						

3. 土地利用の状況

(第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地							山 林		採 草 放牧地 (ha)	原 野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
		水 田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	桑 園 (ha)	茶 園 (ha)	その 他の 樹園地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)					
農業 用ため池 整備事業	宮若市	4.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.6	
	計	4.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.6	
	計														
合 計		4.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.6	

4. 土地所有の状況

(第4表-4)

事業名	所有別 区 分	個 人 有	部 落 有	市 町 村 有	国 有	計	備 考
		面 積 (ha)	4.6	—	—	—	
農業 用ため池 整備事業	関係戸数 (戸)	8	—	—	—	8	
	筆 数 (筆)	32	—	—	—	32	
	権 利 関 係	—	—	—	—	—	
	備 考 (受益者数)	8	—	—	—	8	

第 3 節 水利状況

1. 用水状況

(1) 用水系統 大道溜池を主水源として、受益地4.6haをかんがいしている。

(2) 用水施設 ため池

(ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

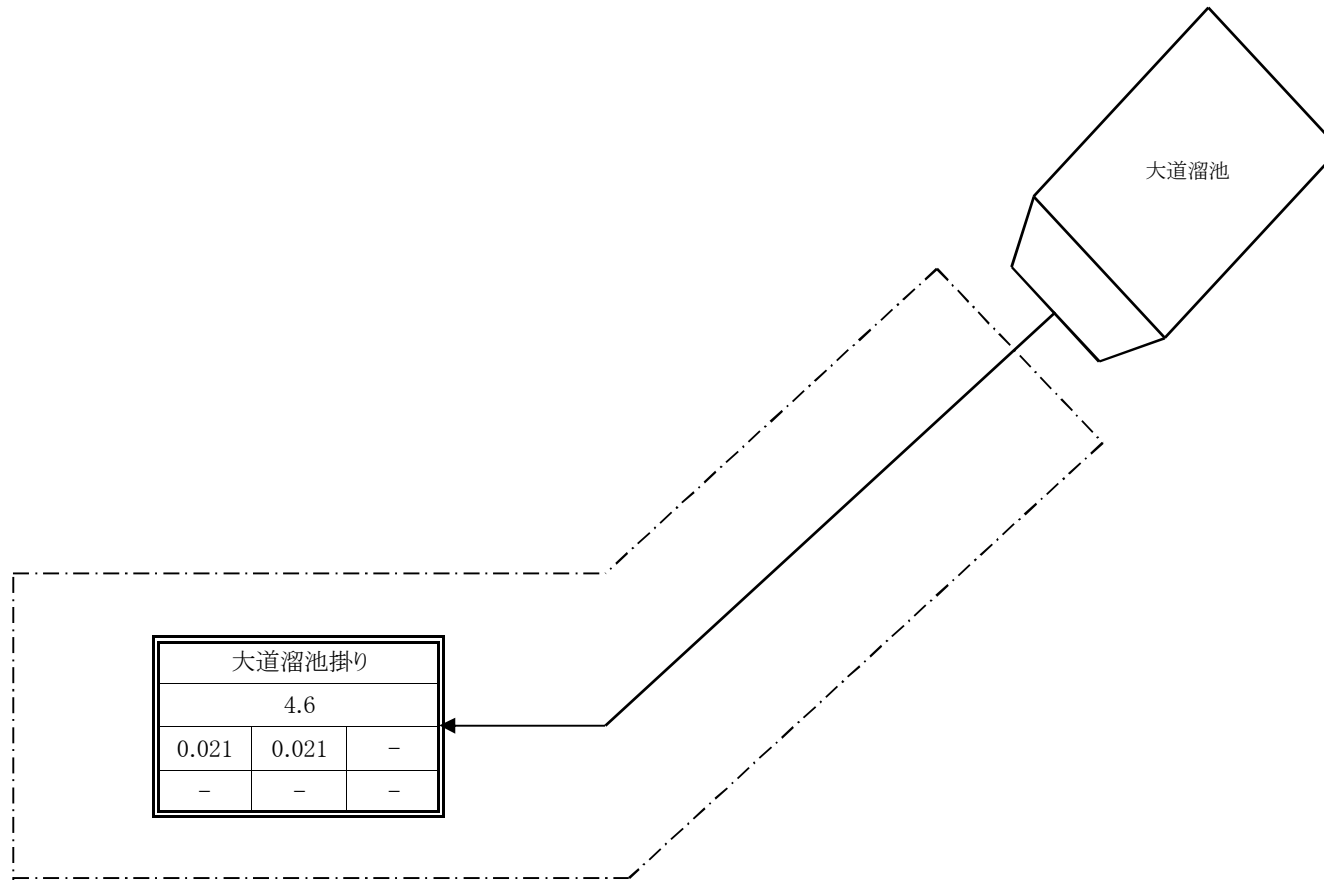
事業名	項目 施設名	か ん が い 面 積								水 利 権		慣行水利権		延 取 水 量		備 考
		100ha以上		100ha～50ha		50ha未満		計		箇所	m <sup>3</sup> /s	箇所	m <sup>3</sup> /s	箇所	m <sup>3</sup> /s	
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha							
整 備 用 た め 池	貯水池					1	4.6	1	4.6			1	0.021			
	井堰															
	自然取入口															
	揚水機															
	その他															
合 計						1	4.6	1	4.6			1	0.021			

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目 施設名	施設名 又は箇所数 (箇所)	受益面積 (ha)	構 造	規 模 (貯水量)	新設年 又は更新年	改 修 を 必 要 と す る 理 由	備 考
	井堰							
	自然取入口							
	揚水機							
	その他							
合 計			4.6					

現況用水系統図



凡 例					
記 号	名 称				
—	既 設 水 路				
○—○	頭 首 工				
▽	貯 水 池				
<table border="1" data-bbox="1742 719 1890 810"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ) (ニ) (ト)</td></tr> <tr><td>(ホ) (ヘ) (ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ) (ニ) (ト)	(ホ) (ヘ) (ト)	地 区 外
(イ)					
(ロ)					
(ハ) (ニ) (ト)					
(ホ) (ヘ) (ト)					
<table border="1" data-bbox="1742 847 1890 938"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ) (ニ) (ト)</td></tr> <tr><td>(ホ) (ヘ) (ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ) (ニ) (ト)	(ホ) (ヘ) (ト)	地 区 内
(イ)					
(ロ)					
(ハ) (ニ) (ト)					
(ホ) (ヘ) (ト)					
(イ)	路 線 名				
(ロ)	灌 漑 面 積				
(ハ)	代 掻 期 粗 用 水 量				
(ニ)	代 掻 期 利 用 可 能 量				
(ホ)	普 通 期 粗 用 水 量				
(ヘ)	普 通 期 利 用 可 能 量				
(ト)	不 足 水 量				

(3) 用水に関する被害状況

(ア) 用水不足による被害状況

(第5表-3-1)

事業名	項目 系統名	かんがい面積 (ha)	現況 必要水量 (千m <sup>3</sup> )	不足水量				平均減産量		平均 維持管理費 (千円)	備考
				かんがい期最大不足水量		かんがい期総不足水量		作物名	減産量 (t)		
				平均 (m <sup>3</sup> /s)	基準年 (m <sup>3</sup> /s)	平均 (千m <sup>3</sup> )	基準年 (千m <sup>3</sup> )				
	計										
	計										
	合計										

(イ) その他の被害状況

(第5表-3-2)

事業名	時期別	かんがい面積 (ha)	水温(°C)		水質	被害量 (t)	備考
			最高	最低			

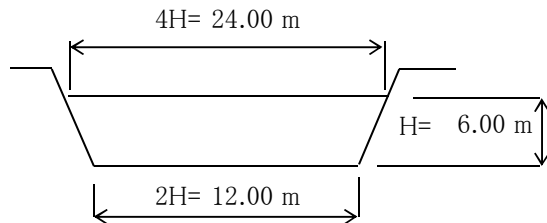
(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

(第5表-3-3)

事業名	想定被害面積 (ha)				想定被害額 (千円)						人命 (人)	備考	
	田	畑	その他 (ハウス)	計	作物	農地	農業用 施設	公共 施設	家屋 その他	計			
農業用 ため池 整備事 業	4.6	0.0	0.0	4.6	3,854	116,788	365,996	17,885	59,283	563,806	1		
	計	4.6	0.0	0.0	4.6	3,854	116,788	365,996	17,885	59,283	563,806	1	
	計												
合 計	4.6	—	0.0	4.6	3,854	116,788	365,996	17,885	59,283	563,806	1		

(5) 原因究明

本ため池が決壊すれば、土石流が下流に氾濫し、農地、農業用施設、その他家屋に至るまで多大の被害を与えると予想される。  
 ため池の老朽化に伴う堤体法面浸食、崩壊などがため池決壊の原因となる事は十分予想されるので、ため池決壊における被害を未然に防止するための改修工事が望まれる。



$$\begin{aligned}
 Q1 &= 4.5 \times H^{5/2} \\
 &= 4.5 \times 6.00^{5/2} \\
 &= 396.80 \text{ m}^3/\text{s}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 Q2 &= \text{設計洪水量} \\
 &= 3.12 \text{ m}^3/\text{s}
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 Q &= Q1 + Q2 \\
 &= 396.8 + 3.12 \\
 &= 399.92 \text{ m}^3/\text{s}
 \end{aligned}$$

2. 排水状況

(1) 排水系統

該 当 な し

(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目		排水面積						計		排水慣行	現況排水能力 (m <sup>3</sup> /s)	備考
			ha以上		～ ha		ha以下						
	施設名	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha				
自然	排水路												
	水門												
機械	排水機												
	水門及び排水機												
	排水路及び排水機												
	計												
	合計												

(イ) 改修を要する施設の一覧表

(第5表-5)

事業名	項目		施設名 又は箇所数	構造	規模	新設年 又は更新年	改修を必要とする理由	備考
	施設名							
	自然	排水路						
		水門						
	機械	排水機						
		水門及び排水機						
		排水路及び排水機						
	計							
合計								

(3) 排水に関する被害状況

(第5表-6)

事業名	項目 系統名	排水面積 (ha)	降水量 (mm)		た ん 水 状 況				乾 湿 状 況 (ha)						平均減産量 (t)		平均 維持管理費 (千円)	備考
					湛水深 (cm)	湛水時間 (hr)	湛水面積 (ha)	湛水量 (千m <sup>3</sup> )	田		畑		その他		作物名	減産量		
									乾	湿	乾	湿	乾	湿				
			平均															
			基準年															
	計		平均															
			基準年															
	合計		平均															
			基準年															

3. 河川状況

(1) 河川の現況

(第5表-7)

項目 河川名	流路状況	勾配	断面	安全排水量 ( $m^3/s$ )	既往最大排水量 ( $m^3/s$ )	備考

(2) 洪水に関する被害状況

(第5表-8)

項目 区分	農用地 (千円)	農用施設 (千円)	作物 (千円)	公共施設 (千円)	備考
過去の最大被害額					
平均被害額					

第 4 節 道路現況

1. 道路概況

該 当 な し

2. 主要道路一覧表

(第6表)

No,	路 線 名	管理区分別	延 長 (m)	幅 員 (m)		構 造	改修の適否	備 考
				全 幅	有 効			

第 5 節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口（令和2年国勢調査） 市町村別産業大分類別15歳以上就業者

(第7表-1)

市町村名	項 目	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建 設 業 (人)	製 造 業 (人)	業熱電 供給水 道 業 (人)	運 輸 通 信 業 (人)	飲卸 食小 売店 業 (人)	金 融 保 險 業 (人)	不 動 産 業 (人)	サ ー ビ ス 業 (人)	公 務 (人)	そ の 他 (人)	備 考
計	11,752	576	9	0	6	966	2,524	37	936	1,515	127	125	4,137	341	453		
(比率)	100.0%	4.90%	0.1%	0.0%	0.1%	8.2%	21.5%	0.3%	7.9%	12.9%	1.1%	1.1%	35.2%	2.9%	3.9%		

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専兼業別農家数

(第7表-2)

区分 市町村名	農家総戸数(戸)	経営耕地広狭別農家戸数(戸)											1戸当たり平均農用地面積(ha)					耕地の分散状況		専兼業別農家数(戸)			備考	
		を例外規定の適用を受けるもの	0.3	0.5	1.0	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	20.0	自給的農家	田	畑	樹園地	小計	草地	計	一戸当たり 団地数	団地 面 積 (ha)	専業	兼業		
			0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 1.5	1.5 ~ 2.0	2.0 ~ 3.0	3.0 ~ 5.0	5.0 ~ 10.0	10.0 ~ 20.0	20.0 以上											第一種		第二種
宮若市	691	11	69	187	120	68	79	59	36	12	6	44									88	102	442	九州農林水産統計年報(69次)専兼業別農家数:2020年農林業センサスより
計	691	11	69	187	120	68	79	59	36	12	6	44									88	102	442	
比率(%)	100	2%	10%	27%	17%	10%	11%	9%	5%	2%	1%	6%									14%	16%	70%	

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-3)

項目 市町村名	動力農機具(2015年農林業センサス)						主要家畜(2020年農林業センサス)						備考
	動力田植機		トラクター		コンバイン		乳用牛		肉用牛		採卵鶏		
	数量(台)	戸数(戸)	数量(台)	戸数(戸)	数量(台)	戸数(戸)	数量(頭)	戸数(戸)	数量(頭)	戸数(戸)	数量(羽)	戸数(戸)	
宮若市	536	525	805	660	506	493	0	2	0	2	0	2	
計	536	525	805	660	506	493	0	2	0	2	0	2	
100戸当たり数量(台,頭)	102		122		103		0		0		0		
利用戸数割合(%)	31.3		39.4		29.4		0.0		0.0		0.0		

4. 主要作物作付状況

第71次福岡県農林水産統計年報（第7表-4）

市町村名		宮若市						計	平均	作付率	備考
総耕地面積 (ha)		1,710						1,710			
総本地面積 (ha)		1,639						1,639			
区分		作付面積	単位面積	作付面積	単位面積	作付面積	単位面積	作付面積	単位面積	%	
作物名		(ha)	(kg/10a)	(ha)	(kg/10a)	(ha)	(kg/10a)	(ha)	(kg/10a)		
田	表作	水稻	1,060	444				1,060	444	64.7%	田：九州農林水産統計年報(71次) 畑・果樹地：2020年農林業センサスより
		大豆	58	126				58	126	3.5%	
	裏作	小麦	90	341				90	341	5.5%	
		二条大麦	43	421				43	421	2.6%	
	小計		1,251					1,251		76.3%	
畑	春夏作	ブロッコリー	5					5		0.3%	
		きゅうり	3					3		0.2%	
	秋冬作	だいこん	3					3		0.2%	
		はくさい	3					3		0.2%	
	小計		14					14		0.9%	
樹園地	ぶどう		18					18		1.1%	
	日本なし		2					2		0.1%	
	かき		1					1		0.1%	
	その他かんきつ		1					1		0.1%	
	小計		22					22		1.3%	
計		1,287					1,287		78.5%		
市町村別延べ作付率(%)		78.5%									

5. 農業の動向

(R7年現在) (第7表-5)

項目 区分	農 家			土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地 域 指定等	備 考
		B	A (現在)		B	A (現在)	作 物 名	B	A (現在)	家 畜 名	B	A (現在)	農 機 具 名	B	A (現在)		
変化の 状況 (C年を 100とする 指数)	総農家数	81	62	耕地	98	96	水 稻	96	96	乳用牛	81	0	動力田植機	99	80		
	専業農家数	168	70	田	99	98	小 麦	90	96	採卵鶏	78	0	トラクター	98	85		
	第一種 兼業農家数	46	46	畑	90	85	大 麦	175	325				コンバイン	98	83		
	第二種 兼業農家数	175	325				大 豆	175	325								
	農 業 従事者数	78	59														
変化の 理由	社会的諸条件の変動により農家の集約化が進み農業従事者が減少する中で、兼業農家数が増加している。			高齢化による担い手不足や都市化により減少傾向にある。			減反の影響により大豆等の転作作物が増加している。農業政策により大麦の作付けが増加している。			家畜の飼養戸数が減少傾向である為、飼養頭数も減少している。			専業農家増加による農業従事者の集約や大型機械の共同利用が進んでおり台数は減少傾向にある。				
	A:2020年農林業センサス B:2015年農林業センサス C:2010年農林業センサス			A:71次農林水産統計年報 B:66次農林水産統計年報 C:63次農林水産統計年報			A:2020年農林業センサス B:2015年農林業センサス C:2010年農林業センサス			A:2020年農林業センサス B:2015年農林業センサス C:2010年農林業センサス			A:2015年農林業センサス B:2010年農林業センサス C:2005年農林業センサス				

## 第6節 地域環境の概要

### 1. 植物、動物等生態系の概要

植物に関しては、本市は周辺を山々に囲まれており森林に恵まれているが、大半がスギやヒノキ、サワラの人工林であり、自然林の割合は小さい。また、森林の手入れが充分でなく、生態系への悪影響が懸念されている。本市と篠栗町の境界部にはクロモジが分布しており、九州では唯一の自生地となっている。また、過去にはコウラボシも確認されている。動物に関しては、外来種の拡大・定着による在来種への影響が懸念されている。本市では希少動物として鳥類のアカショウビンや両生類のトノサマガエル、昆虫類のオオウラギンスジヒョウモン、アカマダラコガネ、貝類のアメイロギセルなどが確認されており、生態系の保全に努める必要がある。

※宮若市の福岡県レッドデータブック2011および2014のカテゴリーより記載する。

植物群落	クロモジ群落	絶滅機種	Ⅱ類
維管束植物	コウラボシ	絶滅機種	ⅠA類
鳥類	アカショウビン	絶滅機種	Ⅱ類
両生類	トノサマガエル	絶滅機種	ⅠB類
昆虫類	オオウラギンスジヒョウモン	絶滅機種	ⅠB類
昆虫類	アカマダラコガネ	絶滅機種	Ⅱ類
貝類	アメイロギセル	絶滅機種	ⅠB類

### 2. その他地域環境の概要

本市は福岡県の北部に位置し、北は福津市・宗像市・鞍手町、東は直方市、南は飯塚市・小竹町、西は篠栗町・久山町・古賀市に接しており、面積は139.99km<sup>2</sup>。市の西部から南部にかけては、太宰府県立自然公園に指定されており、犬鳴山・菅嶽・鉾立山・笠置山・日陽山などの山々が連なっている。北部から東部にかけては西山・靡山・権現山・六ヶ岳が連なり、これらの山々と、山々に囲まれた盆地が本市を構成している。市域には遠賀川水系の河川が流れている。また、犬鳴ダムや力丸ダムがあり、大小様々なため池も点在しており、これらが盆地に広がる農地や市街地を潤している。宮田地区の基幹産業は自動車関連産業をはじめ様々な分野の製造業である。一方、若宮地区の主な産業は農業で、農産物の産地直売や、国指定史跡の竹原古墳をはじめとする歴史遺産や、脇田温泉などを生かした観光産業にも力を入れている。よって、宮若市の発展については、生活環境の整備をすすめ、自然環境の維持、保全の努力をしていくものである。

## 第 4 章 一 般 計 画

### 第 1 節 事業計画の要旨

#### 1. 要 旨

項 目	事 業 を 必 要 と す る 理 由	改 修 ・ 補 強 工 法	備 考
取水施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老朽化による水密性の懸念。</li> <li>・緊急放流施設の機能不足。</li> <li>・底樋の断面不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・斜樋管は塩ビ管φ250、取水孔はφ150×11孔とする。</li> <li>・取水孔とは別に緊急放流孔φ200を設ける。</li> <li>・底樋はPC底樋管φ800と土砂吐ゲートを設ける。</li> </ul>	
洪水吐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通水断面不足。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正面越流型にて改修。</li> </ul>	
堤体または基礎からの漏水状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤体下流法面に漏水あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前刃金土により遮水性の向上を図る。</li> <li>・下流にドレーンを設置。</li> </ul>	
堤 体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤体の余裕高不足。 現況0.88&lt;必要余裕高1.35</li> <li>・堤体の下流斜面は、安全率1.2以上を確保できない。</li> <li>・堤頂幅不足。 現況2.00m&lt;必要幅3.60m</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・堤体改修工法:傾斜遮水ゾーン型工法</li> <li>・法面保護工:波受工、張芝工</li> </ul>	
その他被災歴・改修歴・溜池依存の状況等特記事項	不明	不明	

2. 事業別面積

(第8表)

事業名 土地利用区分	農業用ため池整備事業														計 (ha)	備考
	田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)	果樹園 (ha)		小計 (ha)	田 (ha)	輪換耕地 (ha)	普通畑 (ha)	牧草地 (ha)			小計 (ha)		
事業目的 堤体の耐震性が不足しているため緊急に改修する	4.6	—	—	—	—	—	4.6								4.6	
計	4.6	—	—	—	—	—	4.6								4.6	

第 2 節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

該 当 な し

2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分	田	輪換耕地	普通畑	牧草地	果樹園	桑園		小計	原野	山林	その他	計	備考
	区分	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
池農 整業 備用 ため 事業	現況	4.6							4.6				4.6	
	計画	4.6							4.6				4.6	
	現況													
	計画													
	現況													
	計画													
計	現況	4.6							4.6				4.6	
	計画	4.6							4.6				4.6	



5. 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目 土地利用区分	作物名	作付面積(ha)	単位面積当たり労働投下量(hr/10a)				備考
				区分	現況	計画	増減	
				人力				
				機械力				
				人力				
				機械力				
	計							
				人力				
				機械力				
				人力				
				機械力				
	計							
合計								

6. 級地別土地利用区分

(第9表-5)

区分・級地名 土地利用区分		農用地造成(ha)					干拓(ha)					合計
		一級地	二級地	三級地	四級地	計	一級地	二級地	三級地	四級地	計	
農地	田											
	輪換耕地											
	畑											
	(普通畑)											
	(牧草地)											
	樹園地											
	果樹園											
	(桑園)											
その他												
計												

7. 土地配分計画

(第9表-6)

項目 区分	配分戸数 (戸)	地目別配分計画 (ha)							備考
		田	輪換耕地	畑			計		
				普通畑	牧草地	樹園地			
増反		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
入植		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	

第3節 用水計画

1. 計画基準年

\_\_\_\_\_

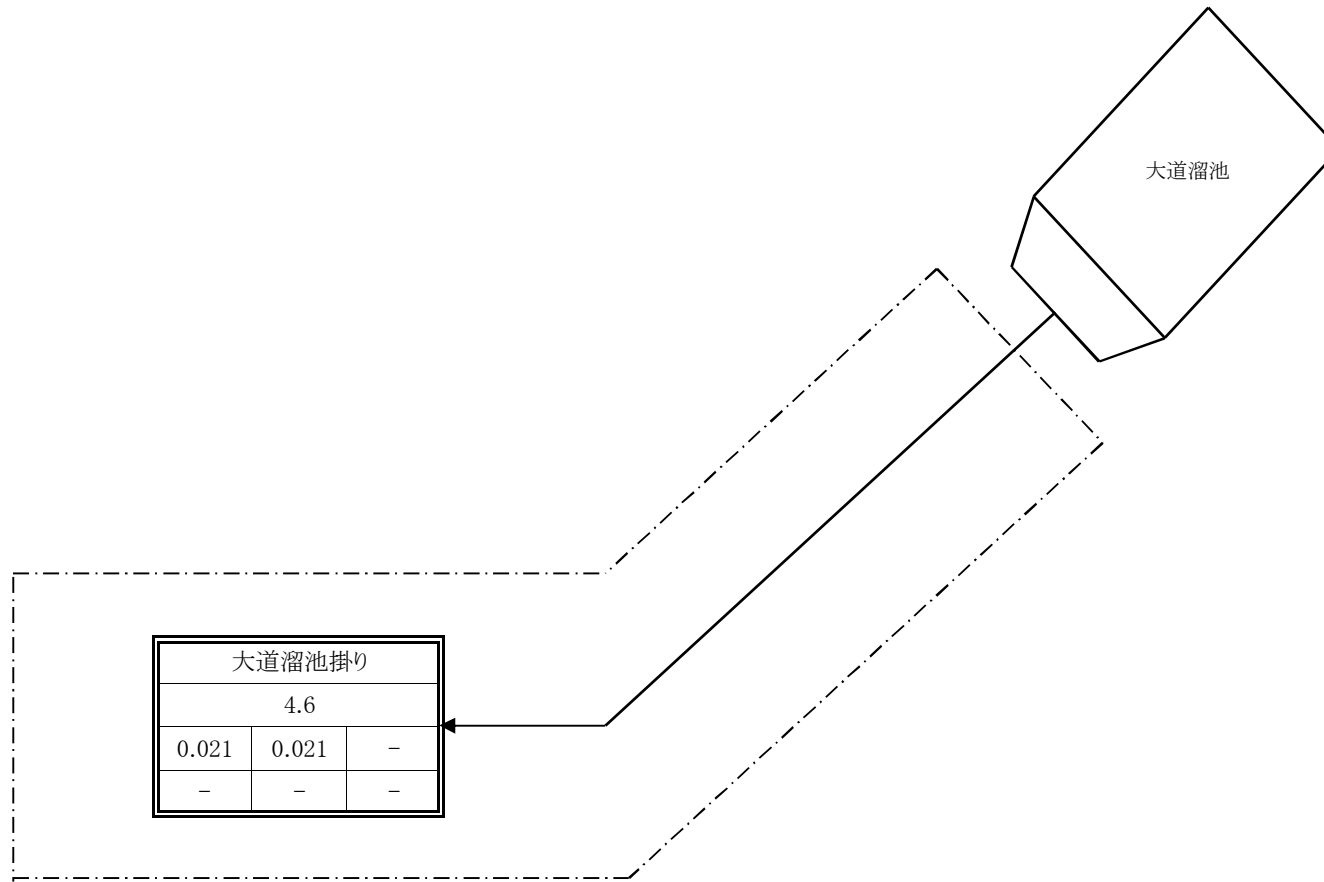
2. 計画かんがい方式

ため池栓の開閉による自然流下かんがいを行う。

3. 計画用水系統

大道溜池 → 受益面積4.6ha

計画用水系統図



凡 例					
記 号	名 称				
————	既 設 水 路				
○——○	頭 首 工				
▽	貯 水 池				
<table border="1"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ) (ニ) (ト)</td></tr> <tr><td>(ホ) (ヘ) (ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ) (ニ) (ト)	(ホ) (ヘ) (ト)	地 区 外
(イ)					
(ロ)					
(ハ) (ニ) (ト)					
(ホ) (ヘ) (ト)					
<table border="1"> <tr><td>(イ)</td></tr> <tr><td>(ロ)</td></tr> <tr><td>(ハ) (ニ) (ト)</td></tr> <tr><td>(ホ) (ヘ) (ト)</td></tr> </table>	(イ)	(ロ)	(ハ) (ニ) (ト)	(ホ) (ヘ) (ト)	地 区 内
(イ)					
(ロ)					
(ハ) (ニ) (ト)					
(ホ) (ヘ) (ト)					
(イ)	路 線 名				
(ロ)	灌 漑 面 積				
(ハ)	代 掻 期 粗 用 水 量				
(ニ)	代 掻 期 利 用 可 能 量				
(ホ)	普 通 期 粗 用 水 量				
(ヘ)	普 通 期 利 用 可 能 量				
(ト)	不 足 水 量				

4. 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1-1)

系統名	項目	種別	面積(ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m <sup>3</sup> /s)	損失率 (%)	粗用水量		備考
			事業名		普通期 (mm/日)	代かき期 (mm)	面積 (ha)	計一日当たり 平均かん水 深(mm/日)	平均 間断日数 (日)	面積 (ha)	計一日当たり 平均かん水 深(mm/日)	平均 間断日数 (日)	面積 (ha)	単位面 積平均 水量 (mm/日)	面積 (ha)			平均 粗用 水量 (m <sup>3</sup> /s)	最大 粗用 水量 (m <sup>3</sup> /s)	
			農業 用ため 池	単位面 積平均 水量 (mm/日)																
					単位面 積平均 水量 (mm/日)	単位面 積平均 水量 (mm/日)														
大道溜池 掛り			4.6		15.0	150.0	4.6									15	0.021	0.021		

(2) 営農飲雑用水

(第10表-1-2)

区分	利用目的	対象面積 (ha)			日当給水量		補給回数 (回)	関係戸数 (戸)	備考
		事業名			単位給水量 (ℓ/日)	最大給水量 (ℓ/日)			
				計					

5. 水源計画

(1) 水利用計画

(第10表-2)

項目 区分	消費水量 a (千/m <sup>3</sup> )	有効雨量 b (千/m <sup>3</sup> )	純用水量 c=a-b (千/m <sup>3</sup> )	粗用水量 d=c/(1-a) (千/m <sup>3</sup> )	現況利用可能水量			不足量		水源依存量		水源工種	備考 備 考 損失率: α
					水源名	取水地点 利用 可能量	ほ場利用 可能量	純不足 水量	全不足 水量	水源名	水量		
						e (千/m <sup>3</sup> )	f (千/m <sup>3</sup> )	g=c-f (千/m <sup>3</sup> )	h=d-e (千/m <sup>3</sup> )		(千/m <sup>3</sup> )		
事業名													
計													

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

(第10表-3)

項目 貯水池名	流域面積 (km <sup>2</sup> )		かんがい面積 (ha)			純貯水量 (千m <sup>3</sup> )	利用貯水量 (千m <sup>3</sup> )	利用回数 (回)	最大取水量 (m <sup>3</sup> /s)	備考 備 考
	直接	間接	事業名		計					
			農業用ため 池整備事業							
大道溜池	0.091	—	4.6		4.6	11.6	11.6	1	0.021	

(イ) 井堰及び自然取入口

(第10表-4)

項目 取水施設名	河川名	流域面積 (km <sup>2</sup> )	かんがい面積 (ha)			取水量 (m <sup>3</sup> /s)		揚水量	備考
			事業名		計	最大	平均		
計									

(ウ) 揚水機

(第10表-5)

項目 名称	水源名	かんがい面積 (ha)			所要水量 (m <sup>3</sup> /s)		揚水機				備考
		事業名		計	最大	平均	実揚程 (m)	揚水量 (m <sup>3</sup> /s)	台数 (台)	全揚水量 (m <sup>3</sup> /s)	

(エ) 用水路

(第10表-6)

項目 名称	かんがい面積 (ha)		計	最大通水量 ( $m^3/s$ )	延長 (km)	構造	備考
	事業名						

(オ) その他の水源施設

該当なし

(3) 水温水質

該当なし

第 4 節 排水計画

1. 計画基準雨量

該 当 な し

2. 計画排水方式

該 当 な し

3. 計画排水系統

該 当 な し

4. 計画排水量

(第 1 1 表 - 1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)		流域面積 (km <sup>2</sup> )		基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		基底流出量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		全排水量 (m <sup>3</sup> /s)			単位排水量 (m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )		備考	
	事業名		計	山地		平地	山地	平地	山地	平地	平地		山地	平地		
											自然排水	機械排水				

5. 排水対策

(1) 排水水門

(第11表-2)

項目 名称	流域面積 (km <sup>2</sup> )	受益面積 (ha)		計	計 画		排 水 本 川			備 考
		事 業 名			排水量 (m <sup>3</sup> /s)	地区内 たん水深 (m)	名 称	計画降水量 (m <sup>3</sup> /s)	計画洪水位 (m)	
計										

(2) 排水機

(第11表-3)

項目 名称	流域面積 (km <sup>2</sup> )	受益面積 (ha)		計	計 画 排 水 量		排 水 機				備 考
		事 業 名			排水量 (m <sup>3</sup> /s)	地区内 たん水深 (m)	実揚程 (m)	排水量 (m <sup>3</sup> /s)	台 数 (台)	全排水量 (m <sup>3</sup> /s)	
計											

(3) 排水路

(第11表-4)

項目 名称	流域面積 (km <sup>2</sup> )	受益面積 (ha)			計画排水量 (m <sup>3</sup> /s)	延長 (m)	構造	排水本川			備考
		事業名		計				名称	計画洪水量 (m <sup>3</sup> /s)	計画洪水位 (m)	

(4) その他

該当なし

6. 湛水検討

該当なし

第 5 節 道路計画

1. 道路及び索道

(1) 道路

(第 1 2 表- 1)

項目 路線名	幅(有効) × 延長 (m) (km)	構 造	既設道路との関係	備 考

(2) 索 道

(第 1 2 表- 2)

項目 路線名	能 力 (t/hr)	延 長 (m)	接 続 道 路 名	備 考

2. 路線配置図

該 当 な し

第 6 節 農用地造成計画

1. 農用地造成計画

(1) 農用地造成計画

(第13表-1)

項目 土地利用区分	主要作物	自然傾斜	耕地の形態	標準区画の形状	備考

(2) 末端道水路配置図

該当なし

2. 土壌改良

(第13表-2)

項目 区分	面積 (ha)	土壌 統(区)名	pH		置換酸度 (Y <sub>1</sub> )	りん酸 吸収係数 (mg/100g)	ha 当たり 所要量			備考
			H <sub>2</sub> O	K C I			石 炭 (t)	りん酸質資材 (t)	有機質資材 (t)	

第 7 節 洪水調節計画

1. 計画基準雨量

該 当 な し

2. 計画洪水量及び調節量

(第 1 4 表 - 1)

地 点	流域面積 (km <sup>2</sup> )	洪 水 到達時間 (ha)	計 画 洪水量 (m <sup>3</sup> /s)	安 全 洪水量 (m <sup>3</sup> /s)	必 要 調節量 (m <sup>3</sup> /s)	ピーク時 調節量 (m <sup>3</sup> /s)	ピーク時 調節後流量 (m <sup>3</sup> /s)	調節後 最大流量 (m <sup>3</sup> /s)	調節前後の 最大流量の 差 (m <sup>3</sup> /s)	最 大 調節量 (m <sup>3</sup> /s)	備 考

3. 貯水池

(第 1 4 表 - 2)

項 目 貯水地名	流域面積 (km <sup>2</sup> )		計 画 洪水量 (m <sup>3</sup> /s)	貯 水 量 (千m <sup>3</sup> )			計 画 調節流量 (m <sup>3</sup> /s)	可 能 調節流量 (m <sup>3</sup> /s)	備 考
	直 接	間 接		有 効	洪水調節 容 量	他 目的			

4. 洪水調節検討

(1) 河川改修計画との関係

該 当 な し

(2) 洪水調節が下流に及ぼす影響

該 当 な し

(3) 計画基準雨量以外の降雨についての検討

該 当 な し

5. 管理計画

(1) 管理機構

該 当 な し

(2) ダム管理操作上の各種基準

該 当 な し

(3) 洪水調節要領

該 当 な し

第 8 節 干拓計画

(第 15 表)

項目 名称	延長 (m)	計画高潮(水)位 (T. P. m)	風向き及び 対岸距離 (km)	風速 (m/s)	気圧 (mb)	備考

第 9 節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

(第 16 表-1)

長辺 × 短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
計					

(2) 表土扱い

(第16表-2)

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 ( $m^3$ )	備考

(3) 末端道水路配置図

該当なし

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第16表-3-1)

項目 区分	面積 (ha)		計	土壌統(区分)	基準雨量 (mm/day)	単位排水量 ( $l/s/ha$ )	計画後の 地下水位 (m)	集水渠出口 以下の 排水方法	備考
	事業名								
計									

(2) 心土破碎

(第16表-3-2)

項目 区分	面積 (ha)		計	土壌統(区)名	土壌硬度	備考
	事業名					
計						

3. 客土

(第16表-4)

項目 区分	面積 (ha)		土壌統(区)名	減水深(mm/日)		作土の厚さ(cm)		10a当たり客土量(m <sup>3</sup> )	土壌の性質		備考
	事業名			現況平均	計画平均	現況平均	計画平均		受益地(%)	採土地(客土材料)(%)	
計											

4. 農地保全

(1) 防災林

(第16表-5-1)

項目 区分	最大風速 (m/s)	幅 (m)	間隔 (m)	備考
計				

(2) 排水工

(第16表-5-2)

項目 名称	基準雨量 (mm/日)	土性	流出率	排水量		備考
				単位排水量 (m <sup>3</sup> /s/ha)	全排水量 (m <sup>3</sup> /s)	
計						

(3) 侵食(崩壊)防止工

(第16表-5-3)

項目 施設名	位置	支配面積 (ha)	機能	備考
計				

第 10 節 老朽ため池改修計画

1. 洪水吐改修計画

(1) 計画基準雨量

計 画 降 雨	観 測 機 関 名	飯塚気象観測所 (1937年～2022年)
	計 画 基 準 雨 量	200年確率時間雨量 95.3 mm/hr 既往最大雨量 101.0 mm/hr (2009年7月24日)
	計 画 根 拠	200年確率雨量と既往最大雨量から、洪水流量を比較し、 計画基準雨量は既往最大雨量を採用する。

(2) 計画洪水量

集 水 面 積	直 接	9.1 ha	合 計	9.1 ha
	間 接	— ha		
計 画 洪 水 量	計 算 式	$Q = 1/3.6 \times f \times r \times A$		
	流 出 率	0.83 (総合流出)		
	計 画 洪 水 量	3.12 m <sup>3</sup> /s		
	貯留効果を考慮	— m <sup>3</sup> /s		

2. 堤体補強計画

堤体補強工 漏水調査の結果、堤体本体より漏水と推定されるため、前刃金土工法で施工する。

法面保護工 堤体上流法面は、波浪による浸食を防ぐため、波受工を施工する。

3. 取水施設改修計画

斜樋は、φ250の塩ビ管に改修し、取水孔はφ150として11孔のため池栓とする。

取水孔とは別に緊急放流孔φ200を設け、開閉用ゲートをつける。

底樋は、PC底樋管φ800に改修し、土砂吐ゲートを設ける。

第 5 章 主要工事計画

第 1 節 用水施設

1. 貯水池

(第 17 表-1)

名 称				位 置						
	形 式	流域面積 (km <sup>2</sup> )		堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (千m <sup>3</sup> )	基礎地盤 地 質	貯 水 量 (千m <sup>3</sup> )		備 考
直接		間 接	総貯水量					有効貯水量		
堤 体										
洪 水 吐	形 式	洪 水 量 (m <sup>3</sup> /s)	備 考	取水施設	形 式	取 水 量 (m <sup>3</sup> /s)	放流施設	形 式	放 流 量 (m <sup>3</sup> /s)	備 考

2. 頭首工

(第 17 表-2)

名 称				位 置					備 考
	型 式	堤 高 (m)	堤 長 (m)		取 水 位 (m)	取 水 量 (m <sup>3</sup> /s)	付 帶 施 設		
固 定 部			可 動 部	計					

3. 揚水機

(第17表-3)

項目 名称	位置	揚水量 (m <sup>3</sup> /s)	揚程 (m)		揚水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 ( )	台数 (台)	

4. 用水路

(第17表-4)

項目 水路名	かんがい面積 (ha)		計	通水量 (m <sup>3</sup> /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	事業名				開きよ	トンネル その他	計				
計											

5. その他かんがい施設

該当なし

第 2 節 排水施設

1. 排水水門

(第 18 表-1)

項目 名称	位置	型式	構造	内水位 (m)	外水位 (m)	排水量 (m <sup>3</sup> /s)	備考	
計								

2. 排水機

(第 18 表-2)

項目 名称	位置	排水量 (m <sup>3</sup> /s)	揚程 (m)		排水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 ( )	台数 (台)	
計											

3. 排水路

(第18表-3)

項目 水路名	受益面積 (ha)		排水量 (m <sup>3</sup> /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
		計								
計										

4. その他排水施設

該当なし

第3節 道路及び索道

1. 道路

(1) 道路の総括表

(第19表-1)

項目 名称	路線名	幅(有効)(m) × 延長(km)	構造	付帯構造物			最急 こう配 (%)	同左の 延長 (m)	最小曲線 半径 (m)	備考
				名称	構造	構造 (箇所)				
計										

(2) 道路主要構造物

(第19表-2)

項目 路線名	名 称	規 模 構 造	延 長 (m)	箇 所 数 (箇所)	備 考

2. 索 道

(第19表-3)

項目 名 称	延 長 (m)	高 低 差 (m)	能 力 (t/hr)	原 動 機		備 考
				型 式	動 力 ( )	

第 4 節 農用地造成

1. 農用地造成

(1) 抜 根

(第 2 0 表 - 1)

項目 区分	樹 種	樹 径 (m)	ha 当たり本数 (本/ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考
計						

(2) 除 礫

(第 2 0 表 - 2)

項目 区分	対象土層の厚さ (m)	ha 当たり標準除礫量 (m <sup>3</sup> /ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考
計					



(5) 末端用水路等

(第20表-5)

区分	項目	数量	規模	構造	備考
	計				

(6) 末端排水路等

区分	項目	数量	規模	構造	備考
	計				

2. 土壤改良

(第20表-7)

区分	項目	面積 (ha)	石灰量 (t)	りん酸質資材量 (t)	有機質資材量 (t)	備考
	計					

第 5 節 洪水調節施設

1. 貯水池

該 当 な し

2. 頭首工及び導水路

(1) 頭首工

(第 2 1 表 - 2)

名 称	位 置		長 (m)			計画洪水位 (m)	付帯施設備	備 考
			堤	可 動 部	計			
形 式	集水面積 (km <sup>2</sup> )	堤 高 (m)	固 定 部	可 動 部	計	計画洪水位 (m)	付帯施設備	備 考

(2) 導水路

(第 2 1 表 - 3)

項 目 水路名	通 水 量 (m <sup>3</sup> /s)	延 長 (m)			構 造	勾 配	備 考
		トンネル	そ の 他	計			

第 6 節 干拓施設

1. 堤 防

(第 2 2 表- 1)

項目 水路名	形 式	延 長 (m)	構 造				現 地 盤 標 高 (m)		備 考
			堤頂標高 (m)	盛 土 幅 (m)	盛土標高 及び舗装	上流斜面	下流斜面	平 均	

2. 潮止め

(第 2 2 表- 2)

項目 名 称	工 法	幅 員 (m)	敷 高 標 高 (m)	潮止め堤標高 (m)	最大流速 (m/s)	床固め構造	備 考

3. 付属施設

該 当 な し

4. 埋 立

(第 2 2 表- 3)

項目 区 分	面 積 (ha)	埋 立 標 高 (m)	埋 立 土 量 (m <sup>3</sup> )	施 工 方 法	備 考

第 7 節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

(第 2 3 表-1)

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工		表 土 扱 い		備 考
		準 備 区 間	土 量 (m <sup>3</sup> )	面 積 (ha)	土 量 (m <sup>3</sup> )	

(2) 末端用水路等

(第 2 3 表-2)

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考

(3) 末端排水路等

(第 2 3 表-3)

区 分	項 目	数 量	規 模	構 造	備 考

2. 暗渠排水

(1) 暗渠排水

(第23表-4-1)

項目 区分	面積 (ha)			集水渠				急水渠					集水渠出口以下の排水施設			備考	
	事業名		計	勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔 (m)	延長 (m/ha)	名称	構造		数量 (m/ha)
計																	

(2) 心土破碎

(第23表-4-2)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m <sup>3</sup> /ha)	面積 (ha)	工法	備考
計					

3. 客土

(第23表-5)

項目 区分	面積 (ha)		客土土量 (m <sup>3</sup> )	土取場土量 (m <sup>3</sup> )	運搬距離 (km)	運搬方法	備考
	事業名						
		計					
計							

4. 除礫

(第23表-6)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m <sup>3</sup> /ha)	面積 (ha)	工法	備考
計					

5. 農地保全

(1) 防風林

(第23表-7)

区分 \ 項目	幅 (m)	延長 (m)	面積 (ha)	樹種	植栽本数 (本)	備考
計						

(2) 排水路

(第23表-8)

区分 \ 項目	延長 (m)	流量 (m <sup>3</sup> /s)	構造	備考
計				

(3) 侵食防止工

(第23表-9)

区分 \ 項目	構造	数量	備考
計			

第 8 節 老朽ため池改修施設

1. 貯水池

(第 2 4 表)

名 称	大道溜池			位 置 福岡県宮若市						
	形 式	流域面積 (km <sup>2</sup> )		堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (千m <sup>3</sup> )	基礎地盤地 質	貯 水 量 (千m <sup>3</sup> )		備 考
直 接		間 接	総貯水量					有効貯水量		
堤 体	前刃金型	0.091	—	7.90	44.7	7.0	礫混じり砂質粘土	11.6	11.6	
	形式	洪水量 (m <sup>3</sup> /s)	備 考	取水施設	形式	取水量 (m <sup>3</sup> /s)	放流施設	形式	放流量 (m <sup>3</sup> /s)	備 考
洪水吐	正面越流型	3.12			斜樋塩ビ管 φ250	0.021		PC底樋管 φ800	0.42	

2. 堤体補強施設

(1) 法面保護工

堤体上流法面は、波浪による浸食を防ぐため、波受工を施工する。

堤体下流法面は、張芝工を施工する。

(2) 漏水防止工

漏水調査の結果、堤体本体より漏水と推定されるため、前刃金土工法で施工する。

## 第 6 章 付帯工事計画

該 当 な し

## 第 7 章 工事の着手及び完了の予定時期

### 1. 工事の着手及び完了の予定

着 手            令 和 8 年 度  
完 了            令 和 12 年 度

### 2. 工 程 表

(単位：千円)

	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度	令和 11 年度	令和 12 年度	合 計
堤 体 工			⇔	⇔	⇔	63,400
洪水吐工				⇔		33,400
取水設備工			⇔	⇔		48,200
仮 設 工		⇔	⇔	⇔	⇔	38,000
測量及び試験費	⇔					18,200
用地及び補償費	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	1,800
工 事 雑 費	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	4,000
事 務 費	⇔	⇔	⇔	⇔	⇔	10,000
事 業 費	19,500	13,900	93,600	68,300	21,700	217,000
同 上 百 分 率	9 %	6.4 %	43.1 %	31.4 %	10.0	100 %

## 第 8 章 環境との調和への配慮

### 配慮の考え方

- 工事実施前及び工事実施中に発見した希少動植物の個体は、近傍の生息可能域へ移動させる。(軽減)
- 工事実施後は、可能な限り速やかに水位回復に努める。(軽減)

## 第 9 章 換地計画の概要

### 第 1 節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

該 当 な し

### 第 2 節 換地区の設定

#### 1. 換地区の名称, 住所, 面積

(第 2 5 表 - 1)

換 地 区 名	換 地 区 の 所 在	面 積 (ha)

#### 2. 換地区を設定する理由

該 当 な し

### 第 3 節 換地計画樹立の基本方針

#### 1. 従前の土地の面積の基準

(第 2 5 表 - 2)

換 地 区 名	地 積 の 基 準



3. 農用地集団化の方針

(第25表-4)

区分 換地区名	地帯別，グループ別団地の設定	個人別換地の方法		
		位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い

4. 非農用地の換地方法

(第25表-5)

区分 換地区名	用途	非農用地区の位置の概略	面積 (m <sup>2</sup> )	換地の手法	換地取得予定者	その他

第 4 節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

該 当 な し

2. 清算の方法

該 当 な し

第 5 節 換地計画樹立の年度計画

(第 2 5 表 - 6)

区 分 換地区名	一時利用地の指定予定年度	換地計画の決定予定年度	換地処分予定年度	備 考

第 6 節 換地処分の時期に関する特則

該 当 な し

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

事業名		農業用ため池整備事業	備考
区分		(千円)	
工事費		183,000	
用地費及び補償費		1,800	
換地費		—	
測量試験費		18,200	
工事雑費		4,000	
地方事務費		10,000	
計		217,000	
関連事業			

第11章 効 用

(単位：千円) (第27表)

事業名	区分	年総効果(便益)額	年増加農業所得額	備考
	効果項目			
農業用ため池整備事業	維持管理費節減効果	△ 20	7	
	災害防止効果(農業関係資産)	22,531	—	
	災害防止効果(一般資産)	2,745	—	
	災害防止効果(公共資産)	828		
	合計	26,084	7	

総費用額： 167,517千円    総便益額： 540,426千円    総費用総便益比： 3.22    所得償還率： —

第 12 章 関連する事業

(第 28 表)

区 分	事 業 名	事 業 主 体	受 益 面 積 (ha)	事 業 内 容

第 13 章 現況・計画図面

1. 位置図

2. 計画概要図

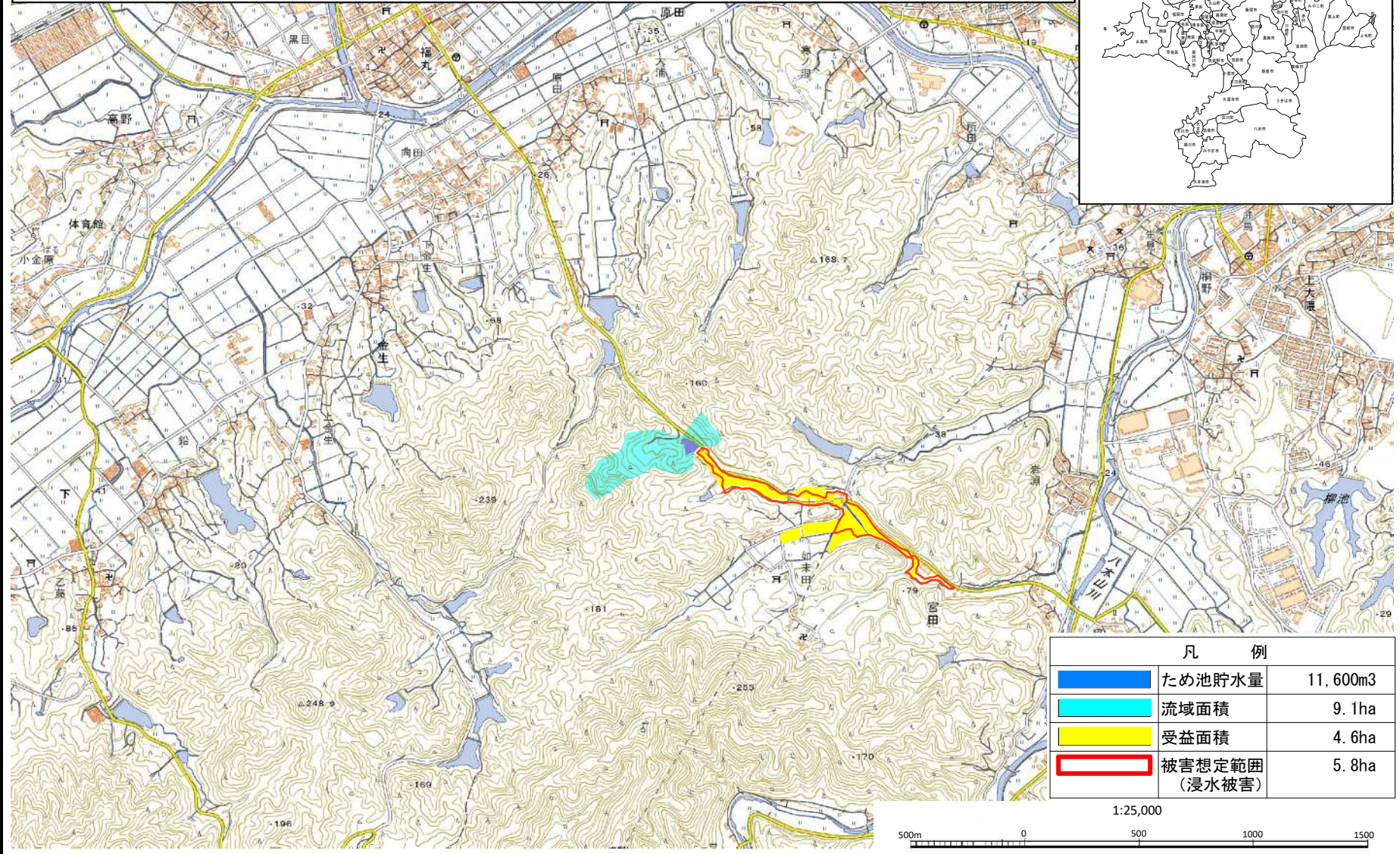
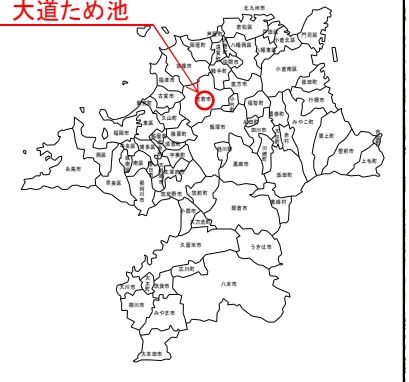
} 別紙のとおり

令和7年度 新規採択希望

農村地域防災減災事業(防災重点農業用ため池緊急整備事業 ため池総合整備工事 一般整備型)

位置図 S=1/25,000

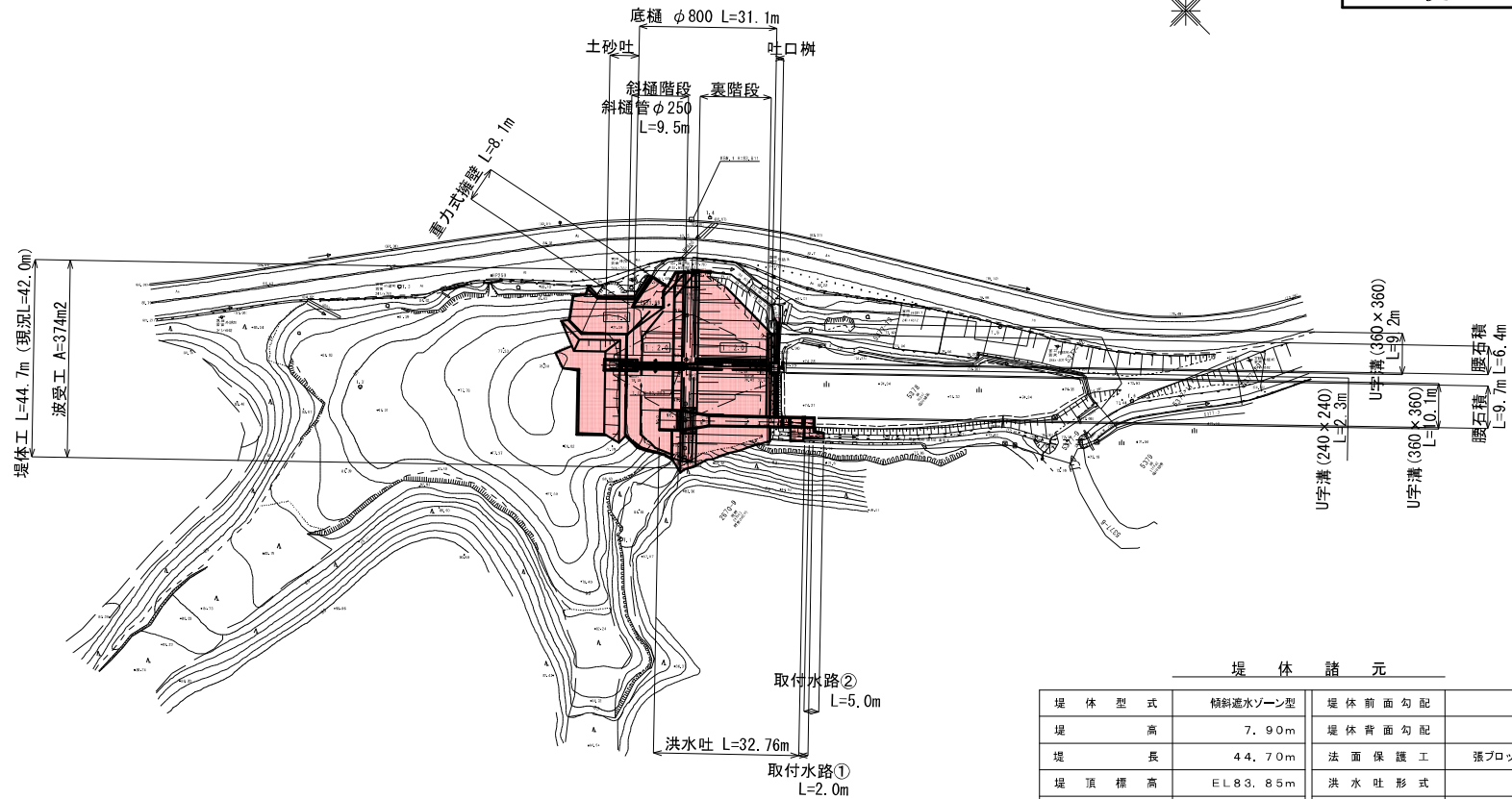
大道ため池



# 大道工区計画概要図(1/6)



計画平面図 S=1:1500



堤体諸元

堤体型式	傾斜濾水ソーン型	堤体前面勾配	1:2.0
堤体高	7.90m	堤体背面勾配	1:2.0
堤体長	44.70m	法面保護工	張ブロック及び張芝
堤頂標高	E.L.83.85m	洪水吐形式	正面越流型
設計洪水位	H.W.L.82.45m	設計洪水流量	3.12m <sup>3</sup> /S
常時満水位	F.W.L.81.95m	水深	0.50m
余裕高	1.40m	越流幅	4.20m
堤頂幅	3.60m	取水設備形式	斜樋型式
貯水量	11,600m <sup>3</sup>	底樋	φ800m



# 大道工区計画概要図(3/6)

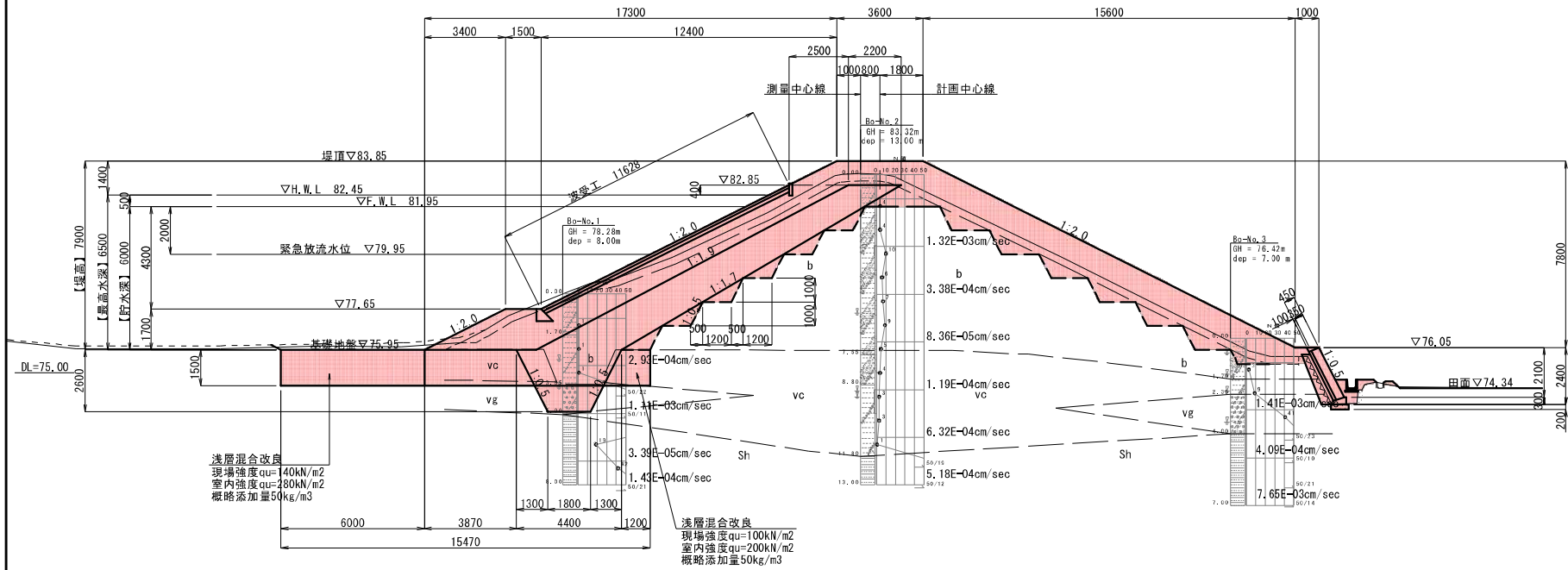


## 堤体標準断面図

S=1:250

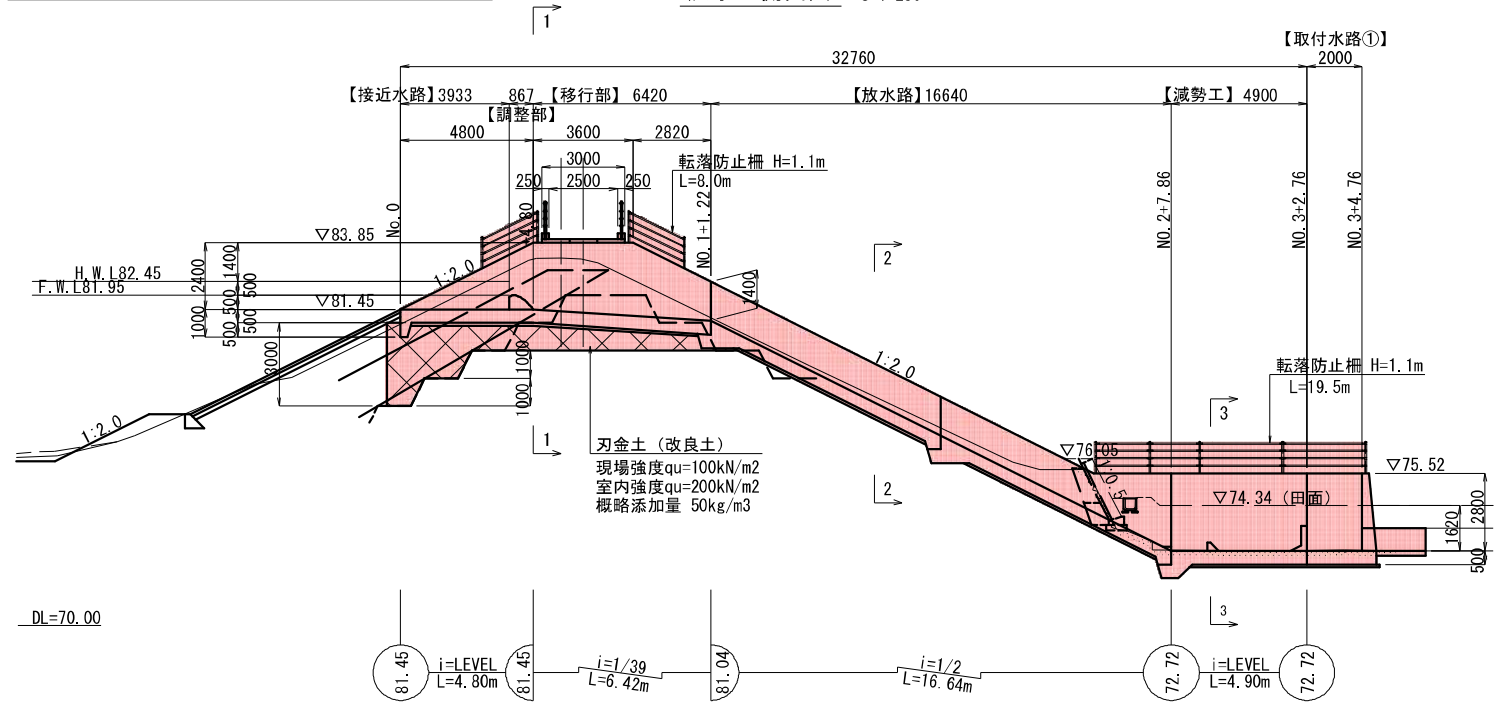
NO. 2

GH=83.33  
FH=83.85

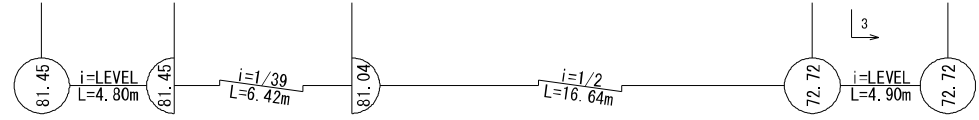


# 大道工区計画概要図(4/6)

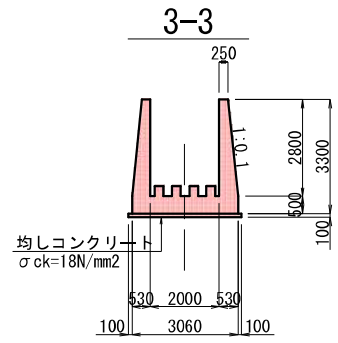
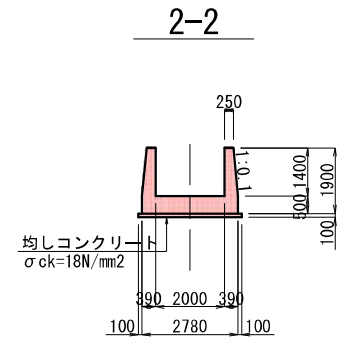
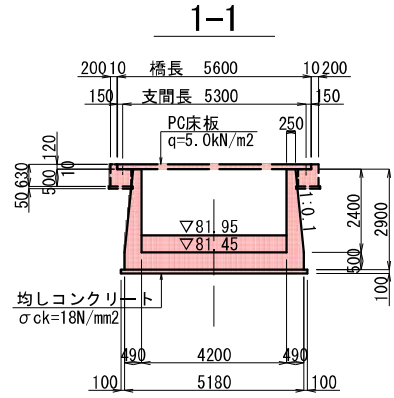
洪水吐側面図 S=1:250



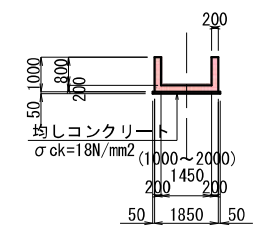
DL=70.00



洪水吐断面図 S=1:200



取付水路②断面図 S=1:200

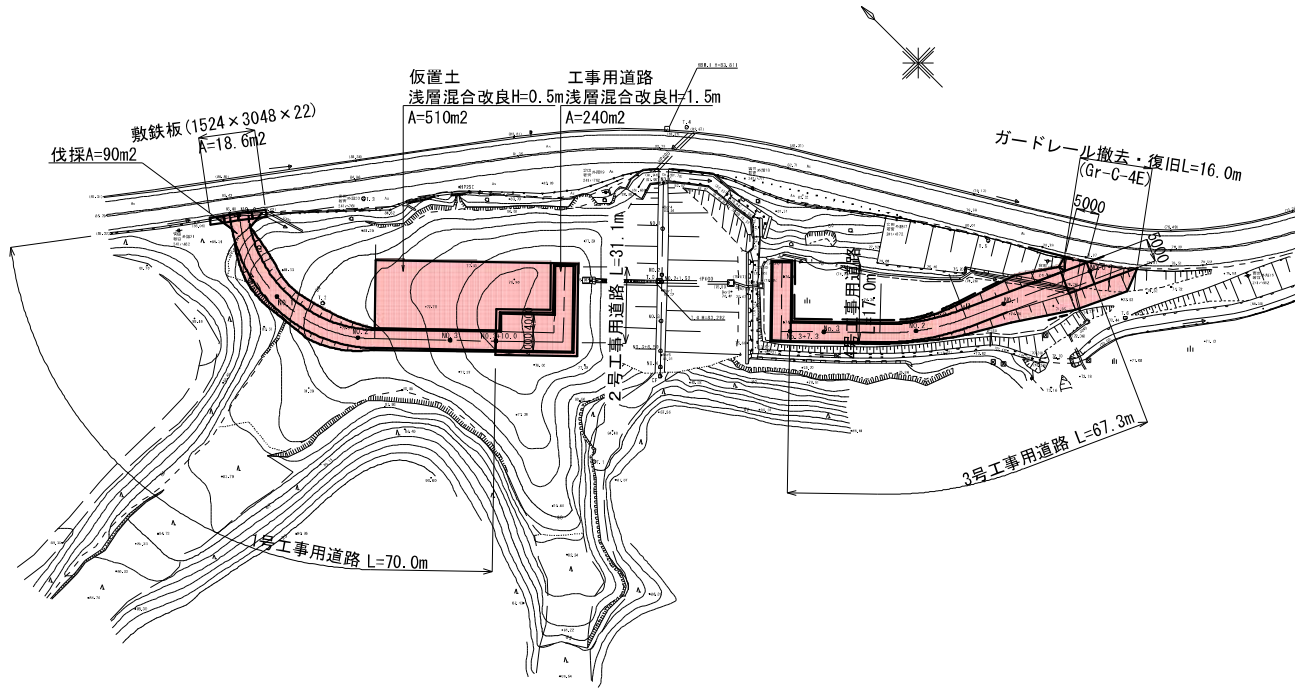




# 大道工区計画概要図 (6/6)

## 仮設平面図

S=1:1500



## 仮設道路断面図

S=1:200

